特定非営利活動法人

チャレンジ企業支援隊　会報

Global Management Supporting Partners (GMS)

会報Ｖｏｌ．９　平成 21 年 8 月 5 日
発行：理事長　山崎健一郎
ＴＥＬ＆ＦＡＸ　0742-41-7839
編集（広報担当）：副理事長　馬塲英彦
ＴＥＬ＆ＦＡＸ　0743-75-1685
Ｅ－Ｍａｉｌ　bamba@m4.kcn.ne.jp
URL:　www.npo-gms.com

新任のご挨拶

（理事長　山崎健一郎）



私ことこの度、前理事長成田欽史郎氏の後任として、平成２１年5月21日開催の臨時理事会で推薦を受け、理事長をお引き受けすることに致しました。

理事長に就任してこの２ヶ月は、挨拶回り・各種会合（含む各部会）への出席・事務局との諸打ち合わせ等で慌しく、あっと言う間に経過した様に思います。

挨拶回りでは、お会いした皆様が一様に、成田氏がＧＭＳ発足当初から今日までの献身的、情熱的なご努力をされた事とその取組みの成果について、感謝と評価をされておられました。

私は、チャレンジ企業支援隊に対する、期待の大きさと社会的責任を痛感し、理事長として責任の重さで身の引き締まる思いを感じました。お引き受けをしたからには、明るく前向きに頑張って行きたいと思います。会員の皆様には、これまで以上のご支援とご協力を宜しくお願い致します。

なお、今後の運営にあたっては、会員の皆様・理事・顧問の方々の周知を集めて、活動の輪を拡げて行きたいと思っております。会員の皆様には次の点をお願い致します。

①チャレンジ企業支援隊の「経営理念」「運営方針」「運営指針」をご確認ください。

一人ひとりが主体性を持って運営に参画し、活動をお願い致します。

今回、理事長に就任して、「経営理念」「運営方針」「運営指針」を再度確認しました。今後、理事長として判断に迷った時はこれに照らして、判断すれば良いと確信いたしました。

②定例会に参加してください。

報告や連絡はメールで十分ですが、議論の必要な事は、メールでは限界があります。忙しくても出来るだけ直接会って話しする事が大切だと思います。２ヶ月に一回の定例会は、会って話し出来る貴重な場でもあります。是非、ご出席をいただき闊達な議論の場にしていただきたいと思います。

５年間を振り返って



（理事・特別顧問　成田欽史郎）

平成15年12月に特定非営利活動法人チャレンジ企業支援隊（以下GMS）設立の認証を得て、11名の理事・監事で活動を開始して以来、5年間にわたり理事及び会員、顧問各位ともに力を合わせて、産業支援型NPO法人として、地道に活動を積み重ねてまいりました。

平成14年の1月に企業OB数名で中小・ベンチャー企業を支援する研究会をスタートしてから、約2年の準備期間を入れますと、凡そ7年間になります。

スタートアップの年は、奈良県中小企業支援センターの全面的なご支援により、『モノづくり現場の改善』、『資材業務の改革』、『ISO9001、14001 認証取得』など５つのセミナーを開催、又奈良市文化振興センター（なら100年会館）からの委託を受けて『頑張れ！奈良』の6回シリーズの講演会を企画し実施しました。

これらの公的機関との連携による幾つかの事業のお陰で、創業期の財政的な困難を乗り越えることが出来たと思います。

その後、近畿経済産業局の販路マッチングナビゲート事業への参画、大阪市立デザイン教育研究所との産学連携によるデザイン支援事業、関西ビジネスインフォメーション㈱との連携による追手門学院大学のキャリアデザイン論の受託、GMSフォーラムや新春交流会の開催による産官学の交流事業、宇陀地区商工会広域協議会の異業種交流コーディネート事業の受託、奈良県機械工業組合からの受託事業、障

害者生きがい支援事業、やまとネットショップ成幸塾、奈良県図書情報館の全面的な支援による GMS 活動紹介展など奈良県を軸足に関西各地における支援事業へと幅広く活動を展開してゆくことが出来ました。

この機会に、これまで暖かい目でご支援いただいた公的機関や団体・法人の関係者各位に、心より厚く御礼申し上げる次第です。

又このように、幅広く事業を展開することが出来た大きな要因は、GMS の特長ともいえる部会制度による自主独立責任運営の方針と、3 つの部会の活動を牽引いただいた各部会長の献身的な努力及び部会活動に積極的参加いただいた会員の皆様の貢献が大変大きいと思います。

また会員全員が、GMS が設立当初より掲げてきた理念（下記参照）を大切にし、困難にぶつかったり、迷ったりしたときには、この理念に立ち返って努力を重ねてきたからだと思います。

どうかこれからも、新理事長のもと、会員の皆さんが GMS 運営の基本である設立の理念と、互恵の精神によるチームワークにより、中小・ベンチヤー企業の支援を通じて、些かなりとも、日本と関西の再正に向けて貢献頂ければと思います。

またこれから定年退職を迎え、第二の人生をスタートする方にお伝えしたいことがあります。仕事を継続される方、これまでにやれなかった趣味や旅行を楽しまれる方など、様々な生き方があると思いますが、ＮＰＯ法人では、現役の頃には全く接点の無かった、様々なバックグラウンドをもった数多くの人達との貴重な出会いがあり、触発されることが多いと思います。第二の人生と、それぞれの人間の成長にとってもこれほど素晴らしい舞台はないと思います。

私たちは様々な面で社会からの恩恵を得てこれまでやってこれたのではないかと思います。職業人生で蓄積してきた経験やノウハウを活かして、社会に少しでも還元するということは、人生の仕上げのステージでの仕事として、大変やり甲斐のあることだと思います。それぞれ健康に留意され、NPO 法人だからこそプロフェッショナリズムと独創性を大切に、元気に活躍されるよう、心よりお祈りしています。

チャレンジ企業支援隊の理念

『社会貢献を基本精神とし、人的なネットワークと連携を大切にしながら、会員の経験・知識・専門技術を活かし、中小企業やベンチャー企業等の支援を通じて、経済社会の活性化と地域社会の健全な発展に寄与することを目指す』 。

第７回総会を開催

（理事・事務局長　南部英治）

5 月 21 日（木）チャレンジ企業支援隊（ＧＭＳ）の第７回総会が門真市の松心会館にて開催された。ＧＭＳはこの総会を毎年５月に開催し、前年度の活動収支報告、今年度の事業計画報告などの議案について会員の皆様の承認を得て事業活動を進めている。



今年の総会は前期の事業報告、今期の事業計画に加え、定款の変更、役員改選と今まで以上に議案も多く、当日は 25 名の会員の方に出席いただき、議案内容の精査と活発な質疑が行われた後、4 つの議案はすべて全会一致で可決、承認された。

この後、ご来賓の方にも参加いただき、馬場理事より平成 20 年度のＧＭＳの部会活動報告が行われ、場所を替えて懇親会となった。

冒頭、前理事長の成田欽史郎氏が今までＧＭＳに支援いただいた皆様への御礼と、総会直後の理事会で新理事長に選任された山崎健一郎氏の紹介があった。山崎新理事長は就任に当たっての決意を述べられ全員でＧＭＳが今後さらに社会に貢献することを祈念して乾杯。また今回新しく理事になられた方の紹介が行われた。参加いただいたご来賓の方々は一様にＧＭＳの活動の幅広さと人材の豊富なことに感心され、今後もＧＭＳの発展とＮＰＯとしての社会貢献に期待しているとのお言葉をいただき和気藹々の中で懇親会を終了した。



第 13 回 GMS 経営勉強交流塾の開催

（理事・モノづくり副部会長　阪本徳男）

「ＧＭＳ経営勉強交流塾」を 6 月 24 日（水）に 25 名の参加を得て開催した。

これまで「モノづくり勉強交流塾」として開催して来たが、今後お客様からのより幅広いご要望に応えて行く為に、「ＧＭＳ経営勉強交流塾」に名称変更。

初めに、松下幸之助没後２０年の特別展（苦境を超えて生成発展）が開催されている「松下幸之助歴史館」を全員で見学した。

冒頭、富田館長よりのご挨拶とﾊｲﾋﾞｼﾞｮﾝ映像【松下幸之助商いの心】を視聴の後、自由見学となった。

松下幸之助が苦難に直面し「我､何をなすべきか」を、社員に対して語るビデオ映像では、「自分の責任を果たしているか」「困難は新しい物を生み出す絶好の機会」との問いかけに、参加者の皆さんは自問自答されていた。



その後、会場を松心会館に移して、山崎理事長の挨拶に続き、阪本（徳）より松下幸之助「苦境を越えて生成発展」について解説をした。

ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議では、Ａ・Ｂのグループに分かれ、自己紹介に続いてＫＪ法を用いて 参加企業様毎に現状・課題・松下幸之助から学んだ事などを発表。

全体会議では、各グループの代表者から、今回の研修で学んだ事、今後生かして行きたい事の発表が行われた。質疑応答では、「パナソニック OB は創業者の思いをどのように受け止め体現していかれたのか」との質問があり、成田特別顧問、山崎理事長、阪本(徳)より、それぞれ体験談を披露した。

恒例の懇親交流会では、各社の業容、悩み、新ﾋﾞｼﾞﾈｽなどについて参加企業様間、或いは参加企業様と GMS 参加者と交流が行われた。



ｱﾝｹｰﾄの結果は、困難（不況）は新しいものを生みだす絶好の機会という松下幸之助の貴重な考えが学べ、ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議では異業種交流が出来た。又 GMS 参加者の貴重な経験談を聞けたなどの意見が多かった。

しかし、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ時間が少ないなどの意見があり、次回開催時に検討が必要である。

ＧＭＳ活動紹介展を開催

（副理事長　馬場英彦）

本年度の新春交流会を奈良県立図書情報館にて開催したご縁により、ネットショップ研修やデジカメ体験講座を通じて、当館よりご提案を頂き、4 月 14 日（火）～4 月 26 日（日）同館２F・エントランスホールにて、『ＧＭＳ活動紹介展』を開催する運びとなった。

期間中は写真家風間秀夫氏（ＧＭＳ理事）による『印像和紙写真展』を始め､『ネットショップ成幸塾』の無料講演会、今までのＧＭＳの活動をパネル・ビデオにて紹介、また『専門家による個別コンサル』､これまで支援活動をしてきた会社、授産施設の『商品販売』など、GMS との関わりを持つ関連の活動を幅広く展示・PR を行う事ができた。期間中、当ブースへお立ち寄り頂いた方は約 600 人にも登った。主な活動紹介は次の通り。



1．印像和紙写真展・・・風間秀夫氏による『平家物語の世界を吉野和紙に写真表現した作品の紹介

2．風間秀夫氏による「デジカメ体験講座」に参加された 13 社の受講生作品展示

「デジカメ体験講座」は奈良県図書情報館より委託事業として、館内「デジタルスタジオ」を活用し 3 ヶ月（6 回）実施した。

3．『やまとネットショップ成幸塾』無料講演会の開催〔4 月 18 日（土)〕

約 100 名の方が熱心に聴き入っておられた。

4．パネル展示/ビデオ放映・・・これまでのＧＭＳの活動内容を約 30 枚のパネルと 10 分のＤＶＤ放映にて紹介。

5．専門家コンサル・・・一般中小企業様対象にＧＭＳ会員によるコンサル相談の実施
＜ものづくり、人材育成＞中村（顕）理事、
＜マーケティング・販促＞辻谷理事・馬場
＜知財権、意匠登録＞西原会員、＜技能伝承・人材育成＞南部理事
９社の相談を受け、今後の支援につながった。

6．商品販売・・・これまで支援してきた会社、授産事業所の商品の販売

■ＧＭＳ活動紹介展■
企画展－印像和紙写真展を終えて－

（理事　風間秀夫）

ＧＭＳ活動紹介展と合わせて、和紙人形による平家物語の名場面を地場産の吉野和紙に特殊な技法でプリントした企画展を開催した。内容は 100 年に一度の世界不況といわれる今日この企画展を通して人間の驕りを見つめ直して欲しいとの思いで制作。オープニングに奈良新聞と奈良テレビの取材を受け、当日の県政ニュースで紹介され多くの来場者を迎え入れることができた。



写真術の発明以来 150 年余りの間続いてきた「銀塩の写真」から今やエレクトロニクスの写真に移り変わり、この間の世界の歴史は大雑把に言って工業化社会の時代にあり、ひたすら「便利な社会」を目指して大量生産、大量消費を美徳とする時代を突っ走ってきた。結果 100 年に一度の世界不況といわれる経済の急激な悪化となった。

企画展「光明灯」に描く題材も「平家物語」を抽出してみた。平家物語は、いわば古代社会の為に奏でられた鎮魂歌なのかも知れないが、現代人が生きて行く上に何か相通じるものがあるのかも知れない。

豊かであることは間違いないが、私たちは何か大切なものを失ってきたのではと立ち止まり身近な写真周辺を見渡せば「黒白印画」がある。写真家にとって原点である。

そこで生まれたのが印像和紙である「古典的なプリント技法」で宇陀和紙とのコラボレーションを試みた。工業製品を飛び越えて、とうの昔に忘れ去られた古典的プリント技法のなかにもっと永遠なもの、存在感のあるもの、手のぬくもりを感じるものといった、生身の人間が求める潜在的欲求を満たす光明を見いだせたと思う。制作工程で何度も水洗いをする必要があるため、それらに耐えられるベースが必要である。その役割をみごと宇陀和紙（吉野和紙）は果してくれた。ちなみに宇陀和紙とは、いにしえの昔、都が奈良から京都に移ったころ「国栖紙（くずがみ)」と呼ばれ表装裏打紙として重宝がられていたようだ。

感光液をつくり→和紙に塗布乾燥→焼付け→現像→定着→水洗→板貼乾燥の工程を得て完成。

印像和紙の技法はいろいろあるが、今回は「塩化銀」を主薬でつくった作品にした。

最後に甦った地場産業の一つ「宇陀和紙」の提供者、漉き宇陀和紙継承者・福西弘行氏に感謝する次第である。

＜解説冊子＞下記の URL でご覧になれます。

http://www.st103.com/book/catalog.html

ＮＰＯ法人ふぁーちぇと大阪市立デザイン教育研究所との産学連携の取り組み

（理事・マーケティング副部会長　辻谷　禎弘）

この取り組みは、奈良県ＮＰＯ社会就労事業振興センター支援事業（詳細は別掲載記事参照）の中で、「地域活動支援センターたむたむ荘、ＮＰＯ法人ふぁーちぇ」への支援活動がきっかけとなった。（運営支援担当：南部、馬場、石田）

「ふぁーちぇ」(理事長・施設長　麻　まり氏）では、通所者が革細工のストラップを加工し販売しているが、更に販売増を図りたいと考えていた。現行商品は「イヌ、ブタ、ゾウ」の３種である。施設メンバー達は、ノーマライゼーションの福祉活動と加工・販売事業の両面で発展を目指し、さまざまな努力を重ねている。

一方、ＧＭＳで支援に赴いた馬場（マーケティング部会長）は、デザイン教育者の立場でこの革細工品が格好のデザイン・マーケティング用教材テーマ

になると着目し、独自にミニテスト販売などを実施していた。

3月30日、辻谷が「ふぁーちぇ」のスキルアップ研修用に「動物革細工品の展示・新デザインの提案書」を作成、包装・ＰＯＰ・シカの試作デザインを提出し、新しく「レザーマスコット」という固有ネーミングをご提案した。併せて、馬場より学生へのデザイン教材提供クライアントになっていただくことを依頼した。

4月16日、「レザーマスコット・デザイン教習企画書」を辻谷が作成、授業の主旨・目的は「1．幅広い視野を持つデザイナーの育成。2．施設就労者の工賃倍増計画達成に寄与。3．絶滅する野生生物を救う世界運動WWFに貢献」の3大項目で、レザーマスコットが“エコ運動に貢献する”というコンセプトで拡売を図ろう！というものであった。

このＧＭＳ提案は「大阪市立デザイン教育（研）」と「ＮＰＯふぁーちぇ」の快諾を得て、5月7日、馬場教授による第1回目のデザイン授業が行われた。「ふぁーちぇ」の麻理事長と3名のメンバーが来校し、レザーマスコットの加工方法を親切に指導、学生達（４０名）は実際に加工体験をして皮革特性を学んだ。外部講師に辻谷も加わり、学生達は新しいレザーマスコットのデザイン課題に取り組んだ。



5月28日、第2回目、学生達のアイデアがまとまり、馬場教室のユニークな教育プログラム：プレゼンテーション授業を実施。麻、辻谷両講師、馬場教授と全受講生の前で各々が90秒間で自己作品を発表、“自己の個性とアイデアをいかに魅力的に伝えるか”、この授業は、いずれ社会で仕事をする上で必要な発表力を学ぶ貴重な模擬体験となる。

学生達は真剣に取り組み、新鮮な”気づき学習“をした。残念ながら、授業主旨・目的に沿った「絶滅する野生生物を救うWWFへの貢献」に関するアイデアは出てこなかったが、学生ならではの多彩なアイデアが多数提出された。

麻理事長のご感想（会報：ＦＡＣＥ☆スタンパ第１５号より抜粋）

「…観察力のすごさは流石にデザイン関係を志望する方々、一回だけの説明であっという間に完成！さらに驚かされたのは発想の豊かさです。ブタがバクになったり、イヌも戯れたの・拘気ているもの、餌を食べるゾウ等、見ていて楽しくなりました。…」。



レザーマスコットは、5~6ｃｍ大の皮革片を型抜きするため細かいディテールは作れない、単純な抜き形でいかにユニークなデザインを創るかが、開発のポイントである。

6月、講師達は40余件の提出アイデアに講評コメントを記して各学生に示し、その中から「ふぁーちぇ」では商品化候補案を選別、7月から試作段階にはいった。3～4案に絞り込まれた試作品の出来上がりが楽しみである。

Ｈ２０年度障害者働きがい支援事業が終了

（副理事長　石田仁男）

平成20年10月より、奈良県くらし創造部・協働推進課からの推薦を受け、「NPO 法人 奈良県社会就労事業振興センター」の依頼で、障害者自立支援法における就労支援事業として、「工賃倍増 5 か年計画」のコンサルティング業務を引き受け、本年3月で平成20年度の支援事業を終了することとなった。

奈良県の対象施設59施設の中から、10事業所をモデル施設として選定し、10月から具体的支援に入り、施設訪問回数76回延べ人数154人となった。

奈良県の目標は、平成18年 月平均工賃9,861円を平成23年度に25,000円（平成18年全国平均12,222円の 2 倍）まで引き上げるもので、かなりハードルが高い目標であった。

馬場副理事長、南部理事、石田の3名でチーム（計画策定管理・ものづくり・商品開発・マーケティング等を対象にして）を組み支援を開始したが、施設によっては施設利用者の平均工賃支払額など計数管理をしていないところもあり、先ず現状把握からのスタートとなった。

今まで福祉施設ではこのような計画立案の経験が無く、何から手をつけたらよいのか全く分からず、

我々支援チームのアドバイスにも半信半疑で双方向の会話にならなかった。

現状把握が出来、平成23年度の目標を決めるまでに、施設の責任者、実際の運営責任者との数度にわたる話し合いにより、計画策定が進み、ようやく意識の変化が現れ、取り組みが進みだした。

10事業所それぞれに課題が違い、対応策についてディスカッションを重ね、事業所自らが考え出すことに腐心をした。進捗状況は、責任者自らが行動する事業所、担当者任せにしている事業所でかなりの差が出てきた。3月が近づくに従い、各事業所も課題が絞れ、専門的支援が必要になり、事業所ごとに「GMS」会員を含めた“マーケテイング・デザイン・ＩＴ・クッキー作り技術”など、専門家派遣も行った。その成果は徐々にではあるが、眼に見えるものになり、3月で一応の区切りをつけることができた。

6月10日に奈良県福祉部障害福祉課の主催で、支援事業報告会が開催され、10事業所がそれぞれ発表を行った。取り組みをして良かった、ＧＭＳのコンサルを受けた事で、事業所改善への自信が出来た等評価を頂くことができた。

また､4事業所からは自費で､引き続きＧＭＳに“ブランド・沙織・デザイン・経営支援”などのコンサルをお願いしたいとの話しを頂き、支援を継続している。

平成21年度は7月から始まり、新たな10事業所を選び、来年3月まで支援事業を引き続きＧＭＳのスタッフが行う予定で進んでいる。

けいはんな新事業研究・交流会の概要

（理事・特別顧問　成田欽史郎）

これまでの経緯

平成20年4月14日、けいはんな文化学術研究都市のベンチャー企業・若手研究者・学生の交流を活発化して、ベンチャー起業へのシーズを育て、そして設立したベンチャーを支援し、けいはんな文化学術研究都市を日本におけるベンチャー企業のモデル地区に、文字通り「けいはんな・バレー」を実現することを目指し『わいわいがやがや会』が発足。

平成20年9月22日、運営委員会（けいはんな新産業創出・交流センター岡本事業部長、薬膳レストラン『あわさい』井原社長、ホープフル・モンスター株式会社・黒岩　将＝奈良先端科学技術大学大学院生)、チャレンジ企業支援隊･成田で、名称を『けいはんな新事業研究交流会』と改称した。７月１３日（月）に第１１回目の会合を開催し、ベンチャー企業２社の事例発表と参加者による交流懇親会が行われた。

事業内容について

けいはんな文化学術研究都市をはじめ関西のベンチャー企業、若手研究者や学生の交流を活発化し、ベンチャー起業へのシーズを育て、設立したベンチャーを支援するため、主として次の指針に沿って事業を推進する。

１）けいはんな新産業創造・交流センター、けいはんなサロン･あわさい、チャレンジ企業支援隊、ホープフルモンスター㈱が連携協力してこの事業に当たる。

２）交流が活発化する環境づくりと事業計画発表の場を提供。本拠はレストラン『あわさい』とするが、来場者の便宜を考えて適時場所を変えて実施する。

３）ベンチャー起業への意欲触発(卓話を通じて成功事例や失敗事例を豊富に提示)

４）ベンチャー支援の対象は学生ベンチャー、企業ＯＢ、脱サラ組のベンチャーや中小企業の第２創業を視野に入れて支援する。

５）ベンチャー企業の技術や事業モデルの正しい評価と的確な助言と支援。

６）京阪奈(京都・大阪・奈良の各府県)全域を視野に入れ、プレゼンテーションの機会を提供すると共に、評価者(目利き)や支援企業・団体も広域の協力体制を構築する。

７）交流を通じて人的ネットワークを広げる場を提供する。

８）事務局機能は当面、けいはんな新産業創造・交流センターに置く。

会員の皆様もお気軽に「けいはんな新事業研究交流会」にご参加頂き、ベンチャー企業の応援をお願い致します。

＜あとがき＞

「**情報は発信基地に集まる**」と言う言葉を聞いた事がある。情報収集の秘訣は、Give&Takeで、先ず自らが情報を発信する事により、自ずと情報は集まって来る。お互いに心がけたいものですね。(山崎)